古典文法トレーニング　長文課題　品詞分解と現代語訳

大問九（出典：『宇治拾遺物語』）

◎品詞分解（名詞は基本的に非表示。非活用語は基本的に初出のみ。）

これ(係助)も(慣)今(用)は昔、筑紫(格助)にたうさかの塞と申す(さへ 格助 丁(作→読))斎(さへ 格助(体修))の神(尊(作→斎))ます。その祠に(ほこら 格助)、修行し(サ変・用 過去・体)ける僧(格助(主格))の宿り(ラ四・用 接助)て(ナ下二・用)寝

たりける(存続・用 過去・体)夜、夜中ばかりには(係助)なり(ラ四・用 強意・終 現在推量・終)ぬ　らむと思ふ(ハ四・体)程に、馬の足音あまたして(サ変・用)、人の過ぐると(ガ上二・体 カ四・体)聞く程に、「斎は

ましますか(尊(人→斎) 終助)」と問ふ(ハ四・体)声す(サ変・終)。この宿りたる(ラ四・用 存続・体)僧、あやしと(シク・終)聞く(カ四・体)程に、この祠の内より(格助)「侍り(ラ変・体 係助 副 謙(斎→武蔵寺) 意志・体)」と答ふ(ハ下二・終)なり(ハ下二・終 推定・終)(※1)。

またあさましと(シク・終)聞け(カ四・已 接助(偶然))ば、「明日武蔵寺にや(係助 謙(人→武蔵寺) 尊(人→斎))参り給ふ」と(ハ四・終 推定・已)問ふなれば、「さも侍らず。何事の(格助(主格))侍る

ぞ(終助)」と答ふ(ハ下二・終)。「明日武蔵寺に(にひぼとけダ下二・用 尊(人→新仏))新仏出で給ふ(推量・終 格助)べしとて、梵天(梵天)、帝釈(たいしゃく)、諸天、竜神集り(ラ四・用 尊(人→梵天など))給ふ(ハ四・終)とは知り給は

ぬか(打消・体 終助)」といふなれば(ハ四・終 推定・已)、「さる事もえ承らざりけり(ラ変・体 係助 副 謙(斎→武蔵寺) 打消・用 過去・終)。うれしく告げ給へ(シク・用 ガ下二・用 尊(斎→人))るかな(完了・体 終助)。いかでか参らでは

侍らむ(丁(斎→人) 意志・体)。必ず(副)参らむずる(謙(斎→武蔵寺) 意志・体)」といへば(ハ四・已)、「さらば(ラ変・未 接助(順接仮))、明日の巳の時ばかりの(副 助)事なり(断定・終)。必ず(副)参り(謙(人→武蔵寺) 尊(人→斎))給へ(タ四・用 謙(人→斎) 意志・終)。

待ち申さむ(格助 ガ上二・用 完了・終)」とて過ぎぬ。

※1：「なり」を含む一文中に音声語はないが、文脈上「答ふなり」＝「答ふる声すなり」と読めるので、「推定」と解釈した。

◎現代語訳（→『ステップアップノート３０　古典文法トレーニング』参照）